

学んだこと。 感じたこと。 伝えたいこと。

第4期 卒業生



都愛珉

<米国>
ハワイ東海インターナショナルカレッジ

朴苑眞

同志社大学 グローバル・
コミュニケーション学部

金蓮花

大阪大学 外国語学部



姜瑜珍

<韓国>
高麗大学社会学科

2013年度第4回KIS卒業式が2月15日に挙行され、16名の卒業生が「越境人」として成長し、新たなステージに旅立った。2008年4月の開校から6年間あるいは高等部からの3年間という青春まったく中の多感な時期をKISで学んだ卒業生たち。

卒業生の一人ひとりの想いと努力の足跡が、KISの歴史と伝統の新たな1ページを重ねていく。第4期卒業生たちが学園生活を通じて学んだこと、感じたこと、そして後輩たちに伝えたいこと、について素直な感想を聞いてみた。

でも約3週間の研修で現地の高校に放り込まれて同世代の友達がたくさんでき、彼らとコミュニケーションをとりながら、「言語は気合い!」と思うようになりました。壁をひょいと乗り越えた感覚です。

帰国してKISで韓国の留学生と話すときも自分でびっくりするくらい意思伝達できていました。それからコリア語はもちろん英語だって伝えたい気持ちさえあれば伝わると確信しました。

朴苑眞 この6年間で一番印象に残ったことは、学生会活動とクラブ活動のテコンドーです。私は中等部2年生から4年間、学生会活動に力を注ぎました。よりよい学校にするにはどうすればいいのか、ということだけを考えていた気がします。

学生会での活動を通じて、人と対話することの難しさを知り、対話がどれほど大切なかということを学びました。一人ひとりが異なる考え方をもつなか、どのようにすれば皆をまとめていけるのか。このことは今後も考えていくべき大きな課題でいました。机に向かった勉強では決して得ることのできない礼儀、パツ

ション(情熱)、忍耐などを学びました。どちらの活動においても続けることで新しい出会いがあり、同じ内容でも環境が違えば、違う考え方や角度から物事を見ることができる機会をもてるからです。

KISでのフィリピン研修こそが私が海外の大学に進学することを決めたきっかけでした(都愛珉)

都愛珉 高等部2年の時に参加したフィリピン研修が一番印象に残っています。KISでも初めて企画したフィリピン研修だったのでトラブルもあり、日本語も韓国語も通じない外国での活動は大変でしたが、それ以上にとても貴重な体験ができました。はじめてのフィリピン人との出会いと交流、現地の学校での授業など、はじめて経験することばかりでした。このフィリピン研修こそが、私が海外の大学に進学することを決めたきっかけでした。

KISでの成功と失敗の経験が6年間で獲得した僕にとっての将来の武器だ(金俊)

金俊 創造とトライの日々でした。学校の環境がまだ整っていない点もあります。でもそういうネガティブ発想をして仕方なく、口を開けて待っているより自分から「行動」すればいいと思い、「無から有」へ、創造する努力を6年間やってきたのが、6年間で獲得した僕にとっての将来の武器だと思います。

――いまの社会や環境についてどのように感じますか?

都愛珉 日本や韓国のニュースを見ると、領土問題や歴史認識問題で政権間は互いに譲り合いをせず、ビルマリとした緊張関係が続いている。また原発の再稼働をめぐる問題もあります。日本社会だけでも解決すべき難問が本当にたくさんあります。しかしそんな社会の中でも、問題点を指摘する人や議論する人、考える人、行動する人がいること自体が未来への「希望」であると思います。

――国籍を選択することは過酷だと思います。どちらか一方を選択するか?

朴苑眞 いま私は二重国籍を持つています。朴苑眞と同時に太田真実という私がいます。現在の日本の法律では22歳までにどちらか一方の国籍を選択しなければなりません。しかし、ずっとこの二つの名前を持ち生きてきた私からすれば「なぜどちらか一つに選択しなければならないのか?」という疑問が生じます。

姜瑜珍 学園生活で印象に残ったことは、特別授業や多様な研修を通して様々な体験をしたことです。また夏休みや春休みを利用し海外研修などがあるので長期休暇を有意義に参加しました。

研修経験は、私の視野を広げ、学びたいという意欲を向上させてくれました。特別授業や研修の一つひとつは内容が濃く、研修を終えるたびに自身が少しずつ成長しているのを感じます。勉強だけではなく、協調性や思いやり、他の人の意見を尊重し理解することの大切さなどを勉強よりも大事だと思えることを学ぶことができました。

金蓮花 新しい言語の習得は、私にとって革命的でした。高1になる春休みの韓国研修は今でもよく覚えています。私はそのころコリア語が伸び悩んでいました。日本生まれの日本育ち、家でもコリア語を喋らない環境で育った私は、いわゆる「外国语」であるコリア語を恥じらいなく喋ることができませんでした。

学んだことは、特別授業や多様な研修を通してして得ることで、特に自分が興味を持つている活動には、とにかく自分から積極的に参加しました。

姜瑜珍 学園生活で印象に残ったことは、特別授業や多様な研修を通してして得ることで、特に自分が興味を持つている活動には、とにかく自分から積極的に参加しました。



金蓮花 在日コリアンとしての立場は悪くないと思います。マイノリティ、最高です（笑）。その他大勢と同じような人間より、自己紹介に倍くらいの時間がかかる人間の方が面白い。若い世代は情報の取捨選択を上手にしながら、よりたくさんのこと吸収するべき立場にあると思います。

姜瑜珍 私を悲しくさせるのは特に差別問題です。理解し合おうとする努力や気持ちがあれば偏見と差別は少しずつ減らすことができると思います。差別によつて生まれるのは憎しみや対立であり、良いことは何もありません。現代は以前に比べ差別が大きく改善されたと言われていますが、それでも多くの差別が残っています。私たちの意識の中にある偏見や差別をなくすことこそが、「共に生きる社会」への第一歩になるのではないかでしょうか。

金俊 フィリピン研修に参加して感じたことですが、先進国はこれまでに「今よりもっと楽に、もっと効率的に」という発想から、これまで発展してきたと思います。日本もそのひとつであります。これまで「今より（人間として）幸せに」という考えが根本のどこかにあつたはずです。にもかかわらず、変化のスピードが

早い社会の中で、「温かさ」「ホスピタリティ」を大事にする人間関係そのものが薄れているようで、とても気になります。韓国や日本でも「孤独」や自殺率の高さが社会問題にまで発展するほど大きな問題になつてるのは、その典型例だと思います。

| 大学生の抱負や将来の夢は？

自分たちだけではどうすることもできずに苦しんでいる人々の力になりたい (姜瑜珍)

姜瑜珍 韓国の大学に進学するの

で、勉強だけではなく言語や文化の面でもたくさん努力しなければなりません。大学生活を通して私の母国である韓国についてしっかり学ぼうと思います。

私が大学で社会学を専攻しようとしたのは、より良い社会をつくる

ことに関わりたいと思ったからです。社会自体に構造的な問題があるため人々が幸せに暮らすことができない問題がたくさんあります。私は自分たちだけではどうすることもできず、苦しんでいる人々の力になりたい。社会問題を解決へと導くことができるような人になることが今の私の夢です。そのためにも、学業はもちろんのこと、自分にできること

あります。私は中国に留学することになるので、とても楽しみです。大学では国籍や文化、考え方などが異なる学生とたくさん出会い、新たな自分を発見したい。

私の夢は、大きく言えば東アジアの平和に貢献できる人になることです。歴史問題や領土問題などでぎくしゃくしている日・韓・中の架け橋になります。まずは言語を学び、各国の文化、政治、経済、文学など様々

な面から、この三国を見ていくことを思います。

都愛珉 私はまず、ハワイ東海インター・ナショナルカレッジという短期大学に入学します。そこで2年間ほど勉強をしますが、英語や大学での専門分野を自分のものにすることが第一の目標です。その後に米国四年制の大学に編入学するつもりです。大学は社会人として生きていく前に人間として成長できる最後の機会なので大学生活を通じてもっと自分の内面を磨いていきたい。



朴苑真

私は大学の中国語コースで勉強することになります。目標はとにかく中国語をマスターすることで、コリア語、日本語、英語も好きですが、なぜか中国語には言語としての魅力を感じます。大

学生になると一年間の海外留学があります。私は中国に留学することになるので、とても楽しみです。大学では国籍や文化、考え方などが異なる学生とたくさん出会い、新たな自分を発見したい。

私の夢は、大きく言えば東アジアの平和に貢献できる人になることです。歴史問題や領土問題などでぎくしゃくしている日・韓・中の架け橋になります。まずは言語を学び、各国の文化、政治、経済、文学など様々

な面から、この三国を見ていくことを思います。

都愛珉 私はまず、ハワイ東海インター・ナショナルカレッジという短期大学に入学します。そこで2年間ほど勉強をしますが、英語や大学での専門分野を自分のものにすることが第一の目標です。その後に米国四年制の大学に編入学するつもりです。大学は社会人として生きていく前に人間として成長できる最後の機会なので大学生活を通じてもっと自分の内面を磨いていきたい。

金俊 僕はAPUの国際経営学部に進学します。まだ体系的な知識の蓄積がないので、まずはこの分野の「専門人」になりたいですね。大学には世界80ヶ国からの学生が集まるので、将来「世界」と戦う仲間を集めたい。また僕は何をするにおいても「世のため、人のため」と考えています。それが私の夢であり理念でもあります。

金蓮花 大学での専攻はヒンディー語です。インドの言語は一度も習ったことはないですが、世界史をずっと学んできた私にとってインドはとても魅力的な国なので、春からの授業にわくわくしています。目標としては、KISのトライリンガルを越えて、5カ国語のペントランガル！スペイン語も欲張って習得しようと



周りの大人口先生の言うことが常に正しいとは限りません

疑つてください（笑）

自分の頭で考えてください

（金蓮花）

朴苑真 KISのいろんな取組に積極的に参加して欲しい。日常生活では部活動や学生会活動に参加すること、また休みの期間に開催される韓国研修やフィリピン研修、その他ボランティア活動などに。こうした体験から得られるものは貴重だし、一生の宝物になる。

それと、やっぱり学校の授業が一番大切です。45分の授業から自分は何を学ぶのか。学ぶ側の姿勢ひとつで、その授業が良かつた、楽しかつたとなるのか、面白くなかったとなるのかが決まります。授業は先生が行いますが、学ぶことから楽しさを

りません。疑つてください（笑）。自分の頭で考えてください。でも疑心暗鬼にはならないでね。このバランスがとつても難しいですが。

姜瑜珍 一つひとつに最善を尽くして欲しい。私は結果よりも、最善を尽くせたかどうかが大事だと思ってます。なぜなら、たとえよい結果につながらなかつたとしても、最善を尽くす過程を通して成長した自分自身を発見することができるからです。

私が完璧な3年間ではなくとも後悔のない3年間を過ごせたのは自分なりに最善を尽くせたからだと思っています。諦めそうになつたときは、今からでは遅いと思うのではなく今からでも最善を尽そう、という思いで頑張つてほしい。いつも応援しています！

授業は先生が行うが学ぶことから楽しさを見つけるのは生徒の仕事だ (朴苑真)

KISでの経験を通じて後輩たちに伝えたいことは？

都愛珉 KISはやろうという気持

ちや成長したいという気持ちがあれど、それができる学校です。待つているだけではなく、やる気を持つて自分から行動に移すことが大切です

で、猛勉強します。

授業は先生が行うが学ぶことから楽しさを見つけるのは生徒の仕事だ (朴苑真)

KISでの経験を通じて後輩たちに伝えたいことは？

都愛珉 KISはやろうという気持

ちや成長したいという気持ちがあれど、それができる学校です。待つているだけではなく、やる気を持つて自分から行動に移すことが大切です

で、猛勉強します。

思っています。

それと、とりあえず日本脱出！で

すね（笑）。もちろんインドも行きたいし、世界中のいろんな所に行きたい。将来の夢は、まだ全然わかりません。いま決めようとも思つていません。ただ自分の食いぶちは自分でまかなえるくらいの稼ぎは欲しいし、緊急時のお金も必ず用意しておきたいので、バリバリ働くつもりでいます。学生の間はたくさん遊んで、猛勉強します。

が、振り返ると私は十分にその環境を使いこなせたとは言えません。少し後悔しています。

ですから、大学に進学した後は何事にも後悔しないように積極的に全力で取り組みます。KISは他の学校と比べて自由度が高いので、自分で自分をコントロールしないと、どんどん楽な方向に流されてしまうから。何よりもKISでの学園生活を楽しんで、先生や先輩、同級生からもたくさん学んでほしい。

授業は先生が行うが学ぶことから楽しさを見つけるのは生徒の仕事だ (朴苑真)

KISでの経験を通じて後輩たちに伝えたいことは？

都愛珉 KISはやろうという気持

ちや成長したいという気持ちがあれど、それができる学校です。待つているだけではなく、やる気を持つて自分から行動に移すことが大切です

で、猛勉強します。

授業は先生が行うが学ぶことから楽しさを見つけるのは生徒の仕事だ (朴苑真)

KISでの経験を通じて後輩たちに伝えたいことは？

<b

KISの新たな挑戦～ 国際バカロレア(IB)の導入へ

副校長 嚴敵俊



KISでは昨年から次なる発展戦略の一つとして国際バカロレア（以下、IB）の導入に向け、検討を始めました。5月には文科省の後援するIB連絡協議会の創設メンバー校として加盟し、同協議会等の開催するIB関連フォーラムへの参加による情報収集とともに、校内教員研修、既実施校視察、プロジェクトチームの結成など、研究を重ねてきました。その結果、今年（2014年）3月15日の理事会で正式にIB導入の決定がなされ、今後、保護者説明会等をへて、今年中に正式申請する予定です。

K-I-Sと国際バカロレア(一B)の導入

IBとはスイスに本部を置く国際バカロレア機構（IBO）が提供する世界共通の教育プログラムです。全人教育を通じて、主体性を持ち、バランス感覚に優れた、国際社会に貢献する人材の育成を目的としています。KISの「越境人育成」という建学精神にぴったり符合するものです。（図1 国際バカロレアの学習者像、参照）。

IBには学齢に応じて、3つのプログラムがありますが、導入を検討しているのは高等部2年次と3年次の2年間にわたるディプロマ（学位）課程（以下、DP）です。今年中に申請をすれば、IBOの審査期間をへて、2年後の2016年度、新高2生徒から実施可能になります。DP課程では2年間のカリキュラムを履修し（図2 DPのカリキュラム、参考照）、学内評価とともに、世界共通の最終試験を受け、所定の基準を満たした合格者にIB資格が授与されます。このIB資格は世界の有名大学約2000校でそのまま入学資格として認められます。

特に、欧米の大学ではIB履修生を明確に優遇しています。同じ条件

図1 国際バカロレアの学習者像

Inquiries	探求する人
Knowledgeable	知識のある人
Thinkers	考える人
Communicators	コミュニケーションできる人
Principled	信念の人
Open-minded	心を開く人
Caring	思いやりのある人
Risk-takers	挑戦する人
Balanced	バランスのとれた人
Reflective	振り返りのできる人

であればIB履修生は一段上の大学を狙えます。成績によつては大学の単位も認められ、奨学金も取りやすい。1期生で1人がイギリスに、4期生で3人がアメリカに進学するKISは今後、欧米留学組をもつと増やしたいと考えており、そのためにもIBは有力な通路となります。

欧米の有名大学がなぜIBを優遇しているのか。それはIB履修性が大学生活で示す高い研究能力・学習成果に根拠があります。IB教育とは、要するに「生徒が主体となる教育」で、すべての学びは生徒の「知りたい」から始まり、「納得した」と「納得した」

の間には「考える」と「論議する」が入ります。これこそ大学と社会の求めめる本当の学力です。生徒は「教えを受ける存在」から「自ら学ぶ主体」になることを求められます。勉強とは本来、こういうものであるはずであります。主体的に学びを作り上げていくので、学ぶ喜びがある。そのような生徒にはいつの間にか学ぶ力が備えられます。

20世紀の大量生産・大量消費時代では標準的でマニュアル的な知識をいかに効率的に理解・暗記できるかが問われましたが、しかし、21世紀の知の世界は、グローバル化・無限競争化が進行して、知識の量それ自体よりも、知識の生産と運用、つまり、主体的に問題を見つけ、解決するという新しい学力を求めています。機械の部品のように、一人ひとり黙々と与えられた仕事をこなせばいい時代は過ぎ、コミュニケーションをしながら創造的に協働できる力が求められています。レールをいかに速く走るかではなく、海図のない海を自力で航海できるかどうか、それこそ「生きる力」「学ぶ力」です。欧米の大学では早くからIBのこのような素晴らしいことに注目してきたのです。

「考える力」が核心

が入ります。これこそ大学と社会の求めめる本当の学力です。生徒は「教えを受ける存在」から「自ら学ぶ主体」になることを求められます。勉強とは本来、こういうものであるはずです。主体的に学びを作り上げていくので、学ぶ喜びがある。そのような生徒にはいつの間にか学ぶ力が備えられます。

20世紀の大量生産・大量消費時代では標準的でマニュアル的な知識をいかに効率的に理解・暗記できるかが問われましたが、しかし、21世紀の知識の世界は、グローバル化・無限競争化が進行して、知識の量それ自体より

生徒が主体となる教育へ

「考える力」が核心

しかし、KISにIBを導入するには壁がありました。日本では馴染みが薄く、IB資格を認める日本の大学が少ないという点です。それが去年、大きく変わりました。日本政府が高校教育の先進化・国際化を目指して、IBOと交渉し、日本語と英語によるDP課程を設置できるようになした上で、2018年までDP実施校（2013年10月現在、19校）を一気に200校にするという目標を掲げ、各大学には入試改革を求めたのです。

入しているか説明会を開く予定です。IBは日本の大学入試、ひいては高校教育のあり方を変えるかも知れません。

日本では授業料の高い欧米系のインターなショナルスクールがIBを実施してきました。高い授業料を払える生徒のためのエリート教育ではないかという印象もありますが、本場の欧米では決してそうではありません。たとえば、アメリカではIBを導入した1651校のうち、公立校が1493校です。その多くは低学力問題に苦しむ学校です。アメリカでは低学力問題の解決策としても注目されていることがわかります。

る力」が核心です。生徒はもともと考える力や表現する力をもっています。環境の再設定やちよつとしたきづかけの与え方によつて生徒の意識と行動は大きく変わります。

I B によつて、その力をどこまで伸ばせるか、設立後6年

図2 DPのカリキュラム（DPは、6つの科目群と3つの中核活動により構成

1	母語系（英語、コリア語、日本語…）	4	実験科学（生物、化学、物理…）
2	外国語（英語、コリア語、日本語…）	5	数学・情報科学
3	個人と社会（歴史、地理、経済…）	6	芸術または1~5のうち選択科目
3つの核	EE（課題論文）	TOK（知識の理論）	CAS（創造性・活動・奉仕）



KIS生徒、韓国の科学シンポなどへの参加

高麗大学で開催されることになりました。



▲韓国・高麗大学



▲釜山国際シンポで発言する高等部2年の趙梨紗さん(2013.12.13/14)

Molecular Frontier Symposium に参加して

高等部1年 都悠兆

今回僕は 10 月 27 日から 30 日までの三泊四日、同級生の李庚鎬と一緒に、韓国・高麗大学で開催された科学シンポジウムに参加しました。やはり不安も大きかった。それは僕たち二人だけで行動すること、シンポの内容についていけるかです。僕は庚鎬に頼りっきりで飛行機や地下鉄に乗り無事到着しました。

いよいよシンポジウムが始まります。朝ホテルの前に集まったとき、周りにはいかにも「できる」感じの学生ばかりで、お腹が痛くなりそうでした。会場に着くともっとたくさんの学生が集まっていて、僕が想像していたもの以上の規模でした。イベントはすべて英語で行われました。そして開会後には歴史に名を残すような科学者の方々が入場してきました。まず一人ひとりが自分の研究についての発表を、パワーポイントを使って発表してくださりました。質問タイムでは、学生からプレゼンに対する質問が切れ目なく続きます。

あまりにもハイレベルすぎて科学者の方が話される内容も、学生が言っていることも理解するのはとても難しかった。けれど質問している学生も真剣であり、その質問に答える科学者も対等な目線で学生を見て語りかけているのを見て、僕は何か不思議な感じでした。

一人の女性の科学者の言葉が印象に残りました。その人は女性で理系であり周りの人から「お前には無理だ」「早くやめた方がいいよ」などと言われていたそうです。それでも彼女は研究を続け、大きな成果を挙げました。

彼女は「自分は本当に科学が好きだという気持ちが強かったから続けた」と言っていました。僕はこのとき彼女の精神力の強さと人生の生き方に感動しました。僕は今回のシンポ参加を通じて、将来本当にやりたいと思えるものを探すことの大切さ、科学者の偉大さ、自分の未熟さを知りました。本当にいい経験になりました。



▲高等部1年の李庚鎬君と都悠兆君(右)

ユネスコスクール活動で活躍するKISの生徒たち

する「E S D 高校生作文コンテスト」に応募し高等部2年生の姜瑜羅さんが、厳しい審査を通過し、見事入賞を果たしました。

ヨーロッパ研修のスケジュールは以下の通り。2014年3月22日事前研修会(於成田)、23日出発、24日ユネスコスクール訪問、25日パリへ、26・27日ユネスコ本部・三菱東京UFJ銀行・パリ支店などを訪問、29日に日本へ帰国というもの。

課題作文は、「持続可能な社会を目指すため私に出来ること～責任と責任感に関する一考説～」と題して、10代の瑞々しい感性とK I Sで培った、越境人スピリット。に裏打ちされた理性的な視点で自らの生き・活きた体験をまつすぐに語り、綴りました。

姜瑜羅さんは高等部1年より、「日韓中高校生3ヶ国国際フォーラム」や昨年末に開催された「アジア太平洋地域高校生8ヶ国国際フォーラム」に参加してきました。この二つの国際フォーラムは、関西のユネスコスクールから集まった数百人の高校生たちと

指すため私に出来ること、責任と責任感に関する「一考説」と題して、10代の瑞々しい感性とK.I.Sで培った、越境人スピリット、に裏打ちされた理性的な視点で自らの生き・活きた体験をまっすぐに語り、綴りました。

姜瑜羅さんは高等部1年より、「日韓中高校生3ヶ国国際フォーラム」や昨年末に開催された「アジア太平洋地域高校生8ヶ国国際フォーラム」に参加してきました。この二つの国際フォーラムは、関西のユネスコスクールから集まった数百人の高校生たちと



第1回田口ノフロー 成果発表会を実施

ノブホリト

2014年1月26日の日曜日、KISを会場に記念すべき「第1回ESDパワーポート」の各校実施・体験例の発表プレゼン会（主催：日本ユネスコ協会連盟）が実施されました。

んと徳相宇くんと3名がプレゼンターに。建学の精神「越境人」校是の説明にはじまり小気味の良いテンポで説明していきます。3人の息もピツタリで、さすが数々の校内報告プレゼン会の場数をふんでいるだけがあります。

特に、最後の「ボランティアと言つても、『K I S でしか』、あるいは、

「E S D パスポート」とはユネスコク人のボランティア活動・奉仕活動の実績を記録するパスポートのことです。松原高校、羽衣学園高校、帝塚山学院泉ヶ丘高校、北摂つばさ高校でK I S を含め、計5つの高校の数十名。今回の活動は互いをもつと深いところで知り合う絶好の機会になったようですね。国際フォーラムの準備をともにした仲間同士が各高校のボランティア活動の実情をプレゼンします。K I S からも中等部1年生から高等部2年生までの生徒たちが、案内係、全体企画のプロデュース、通訳などそれぞれの役割を果たしました。

プレゼンの内容はタイ・ベトナム・カンボジア・ネパールなどの海外ボランティアの例。エコキヤップを集め、ワクチンを寄付した例、東日本大震災復興支援ボランティアの例。募金活動や広報・協力活動における苦労話。多文化共生・異文化理解の授業や実践例。多くの話が魅力的で当事者の思いと想いが詰まつた内容で、あつという間の数時間でした。

A large group photograph of students, mostly young women, standing in several rows. They are wearing school uniforms. In the background, there is a green banner with Japanese text and three flags: China, South Korea, and Japan. The banner reads "日韓中 高校生フォーラム" and "-絆創刀解なれ音をめざして-".

大阪府立松原高校／富田林高校との交流

2013年度第4回卒業式が、2月15日(土)に、茨木市立豊川小学校の体育館で開催され、16名の卒業生がKISから立派に巣立つていきました。金龍満校長は式辞を通じて、「皆さんこの学校で培つた開拓者の姿勢で生きていけば、皆さん個人の発展はもちろんのこと、皆さんの前に広がる社会を一層発展させうると私は確信しています」と卒業生に激励の挨拶を述べました。卒業証書の授与が行なわれた後、大阪府議会議員の森みどり議員と韓国民団茨木支部の朴貞旺支團長から来賓代表のご挨拶をいただきました。

2013年度第4回卒業式を開催

学校と生徒代表からの相互の記念品の贈呈が行なわれた後、各種の表彰状の授与に移りました。大阪府知事賞に朴苑真眞さんが駐大阪韓国総領事賞に檀野由佳さんがそれぞれ選ばれ表彰を受けました。卒業生を代表して朴苑真眀さんが、KISの校章に添えられている「いつも揺れいる」という文言を引用しながら「私たち卒業生はどのような困難にも簡単にあきらめることなく、揺らぎの中で自らを探していくことができる人になるよう努力していきます」と今後の決意を語りました。

卒業式の2部では、学生会を中心となつて自由な雰囲気の中で、卒業生の成長を綴った映像が披露されたり、卒業生が在校生などに自分の思いを語りました。



フットサル大会の実施／地元・小学校との交流

地元・小学校との交流プログラム

地元にある茨木市立郡山小学校2年生36名が、2013年10月24日(木)に、KISを訪問し、中等部の生徒らと様々な交流事業を行ないました。KISに到着するやコリア伝統樂器演奏も脱帽。講演者としても、非常にありがたい雰囲気でした。



フットサル大会の実施

地域における親睦と交流を深め、多文化共生の地域づくりを目的に、第4回さいのもと杯フットサル大会

(主催・同実行委員会)が、2013年9月1日(日)、茨木市立豊川中学

校のグラウンドで開催され、KIS

チームが決勝戦で大阪大学チームを

破り、見事優勝しました。

地元の豊川小学校、郡山小学校、

豊川中学校、大阪大学をはじめエジ

プトの留学生チームなど国際色も豊

かに11チームが参加し、熱戦を繰り

広げました。今回の大会の審判に

は、関西大学サッカー部のメンバー

がボランティア活動の一環として担

いました。

この日、あいにくの雨模様で、途中からは体育館に移動しての試合となりましたが、真剣かつフェアーナ試合には、観客からは時おり大きな歓声と笑顔がはじけるなど有意義な取り組みとなりました。

KIS全員で竜王山ウォークを実施

道を歩く。自分の脚で。
最高の天気です。11月16日(土)朝の8時40分、全校生徒が竜王山顶を目指して学校を出発。竜王山は大阪・茨木市北部に位置する標高510メートルの山で、学校から往復およそ30キロ。先頭は高1、最後尾が中3、道案内人はいつも竜王山に登るという船越先生に務めていただきました。普段あまり歩かない生徒には多少の負担を感じる距離です。なんとか歩いて、達成感を感じてくれたらいいな。友達と一緒に歩く、まあ大丈夫でしょうと。

晚秋の山道を歩きます。柿の木、栗の木、ゆずの木、竹林と棚田。そして、紅葉に染まった山。西国街道、紫金山古墳、隠れキリシタンと歴史も豊かです。「山で行き交う時はみなさん挨拶してるね」、工事現場を通る時は「本当にこんな山中に高速道路ができるの?」といろいろな発見がありました。

12時30分、先頭の高1が山頂に到着。展望台に上ると、大阪府下が一望できます。次々と後発が到着。道に迷った組もあって、全員集まつたのは1時20分でした。お弁当をいただいて、2時前に下山を開始。日があるうちに帰りたいのですが、疲労も累積して、ピーケーに。

もううす暗くなつた5時30分頃、



全員無事、学校に帰ることができます。文句一つなく、我慢して歩き続けた中1の生徒は到着するや、その場で倒れてしまいました。脚は痛いけれど、顔には満足した笑みがありました。「やつたね。お疲れ様」。なんだか誇らしく見えました。来年も続いたいのですが、学生たちの感想はどうだろうか。

した。文句一つなく、我慢して歩き続けた中1の生徒は到着するや、その場で倒れてしまいました。脚は痛いけれど、顔には満足した笑みがありました。「やつたね。お疲れ様」。

続けた中1の生徒は到着するや、その場で倒れてしまいました。脚は痛いけれど、顔には満足した笑みがありました。「やつたね。お疲れ様」。